



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ加盟各社 御中

令和 8 年 1 月 7 日

岡 山 大 学

スーパー食品売場のライブ中継による 食品ロス削減の取り組み「のこり福キャンペーン 2026」を実施！

◆発表のポイント

- ・期間は、令和 8 年 1 月 9 日～3 月 31 日、参加事業者は生協団体・食品スーパーマーケットの 3 事業者 4 店舗です。
- ・参加店舗の食品売場に Web カメラを設置して中継画像（静止画像）を取得。AI-OCR 技術（※）により割引食品のラベルに記載された商品名・定価・割引率（金額）を読み取って、中継画像・割引食品データをスマートフォン用アプリ（<https://www.nokorifuku.com>）に配信します。
- ・アプリ上でポイント還元のクーポン特典を付与します。これに加えてクーポン利用実績 1 件あたり 10 円をフードバンク団体に寄付し、その活動を支援します（一部店舗のみ）。
- ・キャンペーン中のアプリ利用データ・POS データ・人流データ等の分析に基づき、食品ロス削減効果を検証します。

岡山大学が主体となって令和 4～6 年に実施したスーパーマーケット等の食品売場のライブ中継・アプリ配信による食品ロス削減の取り組みの続編として「のこり福キャンペーン 2026」を実施します。岡山大学大学院環境生命自然科学研究科附属 低炭素・廃棄物循環研究センターが企画・運営にあたり、実施期間は令和 8 年 1 月 9 日～3 月 31 日です。

本取り組みでは、趣旨に賛同いただいた 3 事業者 4 店舗の食品売場に Web カメラを設置して中継画像（静止画像）を取得し、AI-OCR 技術により割引食品のラベルから商品名・定価・割引率（金額）を読み取って、中継画像・割引食品データをスマートフォン用アプリ（<https://www.nokorifuku.com>）に配信します。参加店舗では、割引食品購入の啓発資材（ポスター・チラシ等）を掲示・配布して食品ロス削減への協力を呼び掛けるとともに、ネット広告・SNS・アプリのプッシュ通知によりキャンペーンの告知・啓発を強化します。アプリの利用促進・動機づけ強化の観点で、アプリ上でポイント還元のクーポン特典を付与します。加えてクーポン利用実績 1 件あたり 10 円を参加事業者からフードバンク団体に寄付し、その活動を支援します。また、キャンペーン中のアプリ利用データ・POS データ・来店客の人流データ等に基づき、本キャンペーンの啓発効果を検証します。

これらの研究成果は、参加事業者・スーパーマーケットの業界団体、農林水産省等の行政機関に報告し、有用な知見の共有・社会実装を通じてさらなる食品ロス削減に貢献することを目指します。



PRESS RELEASE

■発表内容

岡山県によると、県内の 2019 年度の食品ロス発生量は約 12.7 万 t、うち食品小売業から 1.1 万 t と推計されており、その発生抑制・利活用の推進が大きな課題となっています。食品小売事業者においては、生鮮食品・日配品・総菜等の販売期限の短い食品カテゴリーの食品ロス率が相対的に高く、割引商品の購入喚起等を通じた売れ残り防止策=食品ロス削減策の導入・強化が必要です。

<取り組みの内容>

岡山大学大学院環境生命自然科学研究科附属 低炭素・廃棄物循環研究センターが企画・運営し、令和 4~6 年に実施したスーパーマーケット等の食品売場のライブ中継・アプリ配信による食品ロス削減の取り組みの続編として「のこり福キャンペーン 2026」を実施します。幅広い市民の方々にお買い得な割引食品の情報を随時提供して見える化することを通じてその購入をサポートし、売れ残りを防ぐことを目指します。

スーパーマーケット等の食品売場に Web カメラを設置して中継画像（静止画像）を取得し（図 1）、AI-OCR 技術（※）により割引食品のラベルに記載された商品名・定価・割引率（金額）を読み取って、中継画像・割引食品のデータをスマートフォン用アプリ（<https://www.nokorifuku.com>）に配信します（図 2、図 3）。

また、割引食品購入の啓発資材（ポスター・チラシ等）を参加店舗で掲示・配布し、食品ロス削減への協力を呼び掛けるとともに、ネット広告・SNS・アプリのプッシュ通知によりキャンペーンの告知・啓発を強化します。さらに、アプリ上でポイント還元のクーポン特典を付与。クーポン利用実績 1 件あたり 10 円を参加事業者からフードバンク団体に寄付し、その活動を支援します。

本キャンペーン期間中のアプリ利用実績、食品ロス発生量、売上実績データ（匿名データ）、アンケート調査データ、来店客の人流データ等を用い、データサイエンス手法により食品ロスの削減効果とその要因関連（個人属性、食品ロス削減に係る認知・態度・行動の関連性）を明らかにします。

■実施期間：令和 8 年 1 月 9 日～3 月 31 日

■参加事業者・店舗：岡山大学生活協同組合・ブックストアおよびピオーネショップ、生活協同組合おかやまコーポ・コーポ大野辻、（株）天満屋ストア・ハピーズ津島店

■協力事業者：

- ・アプリ開発（機能強化）：ピープルソフトウェア株式会社
- ・AI-OCR による食品ラベル読み取りシステム開発：Organon 株式会社、株式会社昭文社ホールディングス
- ・マーケティングディレクション：田中宏和（個人）
- ・Web マーケティング：株式会社総合オリコミ社
- ・啓発媒体・コンテンツデザイン：株式会社トータルデザインセンター

■本キャンペーンの名称は、岡山大学公認サークル・環境部 ECOLO の元部員・ノートルダム清心女子大学卒業生の藤井朱梨さんが提案した案を採用しました。



PRESS RELEASE



図1 カメラ設置の様子



図2 キャンペーンの案内ページ



図3 アプリの画面イメージ

■研究資金

本事業は、農林水産省「令和6年度食品ロス削減緊急対策事業のうち食品ロス削減緊急対策モデル支援事業」の支援を受けて実施しました。

■補足・用語説明

※ 画像データのテキスト部分を認識し、文字データに変換する光学文字認識技術

・「のこり福キャンペーン 2026」ホームページ（1月7日公開予定）

URL : <https://www.nokorifuku.net>

〈お問い合わせ〉

岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域

准教授 松井 康弘

(電話番号・FAX) 086-251-8991

(メール) matsui@okayama-u.ac.jp



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

